

《キーワード》 歯の移動、骨改造、骨形成、骨吸収

《担当者名》 別途周知

【概要】

ある大きさ以上の力のある期間以上歯に作用させると、歯の周囲の歯槽骨における骨改造が生じ、歯は力の作用方向に移動する。一般的に力の作用方向の対応側（圧迫側）では骨吸収が、力の作用方向の反対側（牽引側）では骨形成が生じる。矯正学的な歯の移動は、歯周組織に存在する様々な細胞の矯正力に対する反応が複合した形で発現される。

本科目では、矯正力に対する歯周組織の反応に関して動物実験を実践することにより、歯の移動の生物学に関する基礎的理解を深めることを目標としている。

【学修目標】

1. 歯の移動に関わる歯周組織に存在する細胞の役割と矯正力に対する反応について説明できる。
2. 実験動物の取扱い（麻酔導入、安楽死にまつわる手技）及び術中管理を正しく行うことができる。
3. 歯の移動実験を行うことができる。
4. 組織試料の作製に必要な固定処理、脱灰、パラフィン切片の作製の基本原理を理解し、組織試料を作製することができる。
5. 組織試料から歯周組織関連細胞の変化を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ                     | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------------------|-------------|-----|
| 1 | 歯の移動の原理と特徴              |             |     |
| 2 | 動物実験を用いた歯の移動手技          |             |     |
| 3 | 脱灰組織試料の作製方法             |             |     |
| 4 | 脱灰組織試料の観察方法             |             |     |
| 5 | 非脱灰組織試料の作製方法            |             |     |
| 6 | 非脱灰組織試料の観察方法            |             |     |
| 7 | データ処理の実際                |             |     |
| 8 | 学会発表及び論文発表にむけてのシミュレーション |             |     |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【備考】

別途時間割を配付する。

【学修の準備】

自己の研究課題について国内外の文献を検索し、文献検討すること。